河川舟運に関する検討は、河川舟運の可能性を探るとともに、舟運を切り口に河川の整備に新たなアイデアを提供しようとするものである。

○広報・普及

・定期刊行物　月刊ＦＲＯＮＴ、多自然研究、機関誌ＲＩＶＥＲ　ＦＲＯＮＴ、河川水辺雑誌情報、リバーフロント研究所報告

・セミナー、シンポジウムの開催
人と自然にやさしい川づくり国際シンポジウム、自然共生研究会、河川生態環境講習会、各種研究会・講演会　等

・本の刊行
川の親水プランとデザイン、木曽三川の伝統漁、魚道のはなし、フィード総合図鑑－川の生物、サイクロペディア川の生物図鑑、河川水辺の国勢調査（植物、魚介類、鳥・昆虫等）
河川水辺の国勢調査資料編、河川水辺の国勢調査生物種目録

・パンフレットの作成
多自然型川づくり（事例で考える）、川と風土、ふるさとの川整備事業、スーパー堤防　ＧＵＩＤＥ　ＢＯＯＫ、桜づつみモデル事業、魚にやさしい川づくり（邦文、英文）なぎさリフレッシュ事業　等

平成７年度に刊行した本、パンフレット等は上記の通りである。昨年10月に刊行した多自然研究は、多自然型川づくりに関心のある方々の情報交換、交流、発表のための月刊誌である。

当センターがこれまで刊行した書籍のベストセラーをあげると

①まちと水辺に豊かな自然を	Ⅰ	174百部
②　〃	Ⅱ	110 〃
③川の風景を考える －景観設計ガイドライン－		72 〃
④川を楽しむ		68 〃
⑤川　日本の水の環境・文化を想う		65 〃

である。なお、この７月に①・②に続いて「まちと水辺に豊かな自然をⅢ」を刊行した。

自然共生河川研究所（岐阜分室）だより

岐阜分室では（財）ダム水源地環境整備センター岐阜分室と一緒になって自然共生河川研究所という名称を使い、お互いに協力して水辺空間にかかわる調査研究を進めていくこととしています。

去る７月30日に実施しました第３回自然共生河川研究会の内容について報告します。

この研究会は東海地区の学識者、行政、業界（コンサルタント、ブロック業者）の方々が参加し、多自然型川づくりについて議論を重ねて、少しでも自然豊かな川づくりに貢献できればと願って進めております。

今回の研究会は植生をテーマにして実施しました。まず最初に名古屋女子大学客員教授の南川　幸先生に「太平洋斜面河川における多自然型川づくりの基本をなす自然植生」と題して講演をいただきました。講演内容は、東海地区を含む関東以西の太平洋側の気候特性と河川の下流部から上流部までの河床材料の状況、および水辺とのかかわり（乾燥状態）など大きな特徴ごとに区分し、その区分された中でどのような群落が出現するのかを整理し、治水事業等によって攪乱した場合その特徴をふまえて復元すれば、早く自然植生に回復できるという主旨でした。

また、話題提供としては建設省木曽川下流工事事務所の山内　博氏から「木曽三川下流部における貴重種の保全について」と題して貴重種の保全に対する取組みについて話をいただき、愛知県河川課の江川　求氏から「水辺の緑の回廊づくり事前調査について」と題して県管理河川700kmに対し、余裕のある場所に樹木を植栽する考え方について話をいただき、聴講者と議論を進めました。

多自然型川づくりには水辺の植生をいかにして復元させるかが大切な要素ではありますが、まだまだ未知な部分が多く実際の施工実績としても水裏部分での施工がほとんどで、水衡部に近いところでは少ないのが実体です。

これからも地に足をつけ多自然型川づくりを一歩一歩前進させるため、この研究会が少しでも役立つように、運営の仕方を考えながら進めていきたいと思っています。

〒500　岐阜市司町１番地岐阜総合庁舎１階
TEL　058(264)8151　FAX　6757
次　　長　　梅谷内　信　夫
主任研究員　　鈴　木　金　治
主　　事　　鷲　見　昌　子